

新得物産が大臣賞 全国そば優良生産表彰

2016年3月8日

全国そば優良生産表彰（日本蕎麦協会主催）の2015年度表彰で、新得物産サホロ農園（新得町、清水輝男社長）が農林水産大臣賞に選ばれた。最高賞の受賞により、9月に新得町内で初めて開かれる「日本そば博覧会（そば博）in 十勝新得町」に弾みがつきそうだ。

町内で同賞を獲得するのは2005年度の農業村田博さん以来4例目。15年度表彰には全国から23件の応募があった。

同協会によると、新得物産サホロ農園は、新品種の採用などによる多収化・高付加価値化に取り組んでいる。「新得そば」のブランド化を図り、そば祭りなどによるPRが評価された。

ソバ作付面積は70・8ヘクタールで、10アール当たりの「キタワセソバ」の平均収量は163キロ（14年産）。今後も作付面積を拡大する予定。

同表彰は1989年度から始め、今回で27回目。国産ソバの生産奨励、消費者への良質なソバの安定供給を目指して、低コスト・品質向上で模範となる生産者を表彰している。

表彰式は23日に東京都内で開かれる。新得物産の清水社長は「地域の関係者の協力、指導をいただき念願の大臣表彰を受けることができた。これからの会社事業に弾みがつく。荣誉ある賞に負けないようこれからも頑張る」と話した。

欧州ブドウに挑戦 苗木計4000本 芽室ワイン研究会

2016年5月16日



苗木から若い芽がのぞく欧州原産のワイン用ブドウ
（芽室町平和の尾藤さんの畑）

【芽室】町内産のブドウでワイン造りを目指す「MEMUROワインヴァレー研究会」（米田薫会長）の会員農家が苗木の植え付けに取り組んでいる。十勝で栽培が

難しいとされるヨーロッパ種の栽培にも挑戦し、今月中に町内11カ所で約4000本を植える予定。

町平和の尾藤光一さん（52）の畑では、14日から2日間で約1300本の苗木を植えた。所有する畑の中では比較的高台にあり、「栗やサクランボがなる木が多い」と果樹への適性に期待して選んだ。

今年は池田町ブドウ・ブドウ酒研究所が独自に開発した「清舞」「清見」の他、「カベルネソーヴィニヨン」「ツバイゲルト」などのヨーロッパ種を栽培。東西に筋を切り、約1・7メートルの間隔で30センチ前後の苗木を土に差した後、トラクターを使って土をかけていった。

苗木の8割を占めるヨーロッパ種は、「十勝の厳しい寒さを乗り越えられるか未知数」（尾藤さん）。冬場は苗木を囲うため、池田種よりも斜めに植えた。

尾藤さんは「植え方も試行錯誤だが、栽培してみないと分からない。うまくいく方法を見つけ、おいしいワインができれば」と期待に胸を膨らませていた。